

## 壱岐島医療福祉研究発表会募集及び抄録作成要項

### 1 壱岐島医療福祉研究発表会について

- 1) テーマ 自由
- 2) 開催日 令和3年2月14日(日曜日)
- 3) 開催場所 〒811-5133 長崎県壱岐市郷ノ浦町本村触 445 番地  
壱岐の島ホール 中ホール

### 2 演題について

- 1) 演題発表形式 発表時間 6分(時間厳守) 質問時間 4分

### 3 応募方法

- 1) 申し込みは G メール ([ikisima.g@gmail.com](mailto:ikisima.g@gmail.com))
  - ① 送信時の件名は「第7回壱岐島医療福祉研究発表会申し込み」とする。
  - ② メールには「施設名、研究代表者名、連絡先」を記載する。
  - ③ メールを受信後に受信を確認したことを1週間以内に返信します。1週間経っても返信が無い場合はお問い合わせ下さい。  
(光武内科循環器科病院 Tel.0920-47-0023 リハビリ課 岡部)
- 2) 申込期日について
  - ① 応募申込期日は 令和2年10月7日(水)まで
  - ② 抄録提出期日は 令和2年12月16日(水)まで

### 4 抄録作成要項

- 1) 抄録原稿は、【研究テーマ】【所属施設名】【研究者名】【目的】【方法】【結果】【結論】をまとめる。なお、結果がない場合は省略可。  
症例発表の場合は【目的】【症例】【結論】等、詳細は別紙の抄録原稿見本を参照して下さい。
- 2) A4版1枚に簡潔に記述
- 3) 文字ポイントは12ポイントMS明朝体

※抄録作成要項に添って作成されていないものは受付できないこともあります。

研究テーマ：療養病棟におけるストレス実態調査

所属施設名：〇〇病院 〇〇病棟

研究者：○（発表者）□□□□ □□□□ □□□□（共同研究者名）

**【目的】** 療養病棟で夜勤を行う看護職のストレス実態調査を行い、ストレスの原因・検証を行う。また、看護職のストレス実態調査からストレスの低減につながる課題を明らかにする。

**【方法】** 1 期間 平成 21 年 10 月から平成 22 年 7 月  
2 対象 療養病棟スタッフ  
3 方法 療養病棟スタッフに対しストレス実態アンケートを行い双方のストレス結果からストレスの高い項目に対して具体的な内容を記載してもらい内容を提示する。

**【結果】** 看護師、看護補助者両者のアンケート結果、看護師は患者の死に対するストレスは 100%であったのに対し、看護補助者は 50%であった。ターミナルの患者の対応・処置に対するストレスは看護師 100%に対し看護補助者は 67%であった。職場の人間関係に対するストレスは看護師は 67%に対して、看護補助者は 75%であった。

**【結論】** 1 療養病棟に勤務する看護職のストレスの内容は、患者の生死に関わることを少ない人員で行うため、全責任が懸るという重圧感によるものであった。  
2 ストレスの低減を図るためには、ストレスに対する看護師・看護補助者、相互の理解を深めることが重要な課題である。

※文字ポイントは 12 ポイントの MS 明朝体で

お願いいたします

研究テーマ：変形性膝関節症加療中に発症した高齢発症関節リウマチの1例

所属施設名：〇〇病院 〇〇病棟

研究者：○（発表者）□□□□ □□□□ □□□□（共同研究者名）

【目的】初発関節が膝、肩などの大関節にみられる高齢発症の関節リウマチ（RA）レ線所見では変形性膝関節症との鑑別が困難なことがある。今回、変形性膝関節症として加療されていたが、徐々に疼痛が増悪、対側にも疼痛が出現した高齢発症RAの1例を経験したので文献的考察を加えて報告する。

【症例】75歳男性。2010年外傷後より左膝痛が出現。近位にて変形性膝関節症として診断、加療を受けていた。2012年頃より徐々に左膝痛が増悪し、更に右膝痛も出現し歩行困難となったため、精査加療目的で入院。入院時、両膝の疼痛が著明でまったく荷重できない状態であった。人工膝関節形成術を検討されていたが、術前の膝レントゲンにてRAが疑われた。RF強陽性、抗CCP抗体強陽性、CRP陽性、血沈亢進しておりACR/EULARによるRAの新分類基準で6点。抗リウマチ薬開始後、疼痛は徐々に軽減し、現在全荷重可能で歩行訓練中。

【結論】変形性膝関節症で症状が進行性である場合、関節リウマチを発症している例もある。早期診断・治療をすることにより予後改善の可能性もあるため関節症状が進行性、他関節の症状も加わった場合、RAの存在も考慮する必要があると考えられた。

※文字ポイントは12ポイントのMS明朝体で

お願いいたします